

## 第 2 回 飯南町総合振興計画等策定委員会 議事録

開催日時・場所	<p>日時：令和 5 年 12 月 15 日（金）13:30～16:00</p> <p>場所：飯南町役場本庁舎 2 階大会議</p>
議 事 次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 委員長挨拶</li> <li>3. 議 事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) デジタル活用勉強会 林委員</li> <li>(2) 町民意見集約結果の報告                 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 町民・中高生・Well-being アンケート結果</li> <li>2) キーパーソンヒアリング結果</li> <li>3) 町民ワークショップ～飯南ミライばなし～ 開催結果</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4. 意見交換（将来像と重要政策の意見集約）             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 将来像に関する検討の視点 （アンケート・WS 等での将来像に関する意見の抜粋）</li> <li>(2) 10 年後、飯南町がどのような方向性を目指すべきか・将来像の検討</li> </ol> </li> <li>5. 閉 会</li> </ol>
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 2 回 飯南町総合振興計画等策定委員会 議事次第</li> <li>・ 飯南町総合振興計画等策定委員会 委員名簿</li> <li>・ 第 1 回策定委員会_議事録</li> <li>・ 資料 1-1：町民アンケート概要版</li> <li>・ 資料 1-2：中高生アンケート</li> <li>・ 資料 1-3：Well-being アンケート概要版</li> <li>・ 資料 2：ワークショップ結果概要版</li> <li>・ 資料 3：キーパーソンヒアリング概要版</li> <li>・ 資料 4：将来像の検討資料</li> <li>・ 第 3 回委員会日程調整表</li> </ul>



委員会の様子

【出席者名簿】

順不同 ◎委員長、○副委員長

番号	所属団体組織等		委員	備考
1	飯南町自治区長連絡会	会長	石橋 洋司	◎
2	飯南町社会福祉協議会	地域福祉課長	吾郷 由美子	
3	飯南町商工会	事務局長	加津山 幸登	
4	飯南町農業委員会	会長	今岡 和登	
5	飯南町 PTA 連合会	会長	三上 昭彦	
6	山陰合同銀行	赤名出張所所長	徳永 光子	○
7	山陰中央新報社	編集局次長	万代 剛	
8	島根県中山間地域研究センター	主任研究員	東 良太	
9	島根県情報システム推進課	CIO 補佐官	林 正知	
10	住民委員		大嶋 孝子	
11	住民委員		影山 和典	
12	住民委員		芥川 優子	
事務局	まちづくり推進課	課長	藤原 清伸	
		課長補佐	関島 哲郎	
		主幹	岡田 祐也	
		主幹	森山 雄三	
	(株)コスモブレイン (業務委託業者)	技術部 部長	大内 智弘	
		技術部計画課 計画第2課長	實重 彩香	
		技術部計画課 技術員	上代 美帆	

## 【議事録】

### 1. 開 会

### 2. 委員長挨拶

石橋委員長	<p>本日が第2回目の委員会で、前は委員それぞれの意見をお伺いしたところ。それぞれの立場で様々なお考えを持っていることを確認できた。</p> <p>本日は先般行われたアンケートや開催中のワークショップの内容などについて説明していただき、皆様の意見を聞きながら進めたい。第2回目なので計画をまとめていくことや、方向性を決めることはしなくて良いと思うので、それぞれ色々な意見を出していただき情報を共有する会にしたい。できれば皆様1回は発言をしていただきたいと思っている。</p> <p>これを最終的にまとめるにあたって、我々が直接計画を作ることにはならないが、考え方を少しでも反映していただければということと、計画の内容について最終的に出来上がったものがどういう話し合いの過程で出来上がっていくかを策定委員として考え方を共有していくことが大事であり、それぞれの意見を出し合って良い委員会にしていきたい。</p>
-------	---

### 3. 議事

#### (1) デジタル活用勉強会 林委員

##### (講演記録省略)

三上委員	<p>デジタル端末について、スマートフォンはかなり普及しており、かなり年配の方も持っているが、他地域でスマートフォンを活用してうまくいっている事例があるか。</p>
林委員	<p>今思いつかないが、全国や島根県内でもやっているところがある。次回の策定委員会までに調べる。</p>
三上委員	<p>端末は今スマートフォンがメインだと思うので、新たな端末を用意するより、既存のものをいかに活用するかが小さなステップになる。その手掛かりがあれば知りたい。</p> <p>ネットの回線がどのくらい速いとデジタルを推進していると名乗れるような速さなのか。デジタルを推進している飯南町というイメージを持ってもらうために、ネットの速さがどれくらいだったら、他の市町村の方が驚くような速さなのか。</p>
林委員	<p>ギガは出ていた方がよい。そこまで行くと最先端だと思う。</p> <p>飯南町出身の知り合いで、東京でIT関係に就職した方が多くおり、飯南町で仕事をしたら良いと誘うが、クリエイティブな仕事だと、回線が遅くてアップロードできないので飯南町で働くのは難しいという話を聞くこともある。</p> <p>ギガくらいのクラスがあれば、クリエイティブな人は場所に縛られることはな</p>

	<p>いと思うので、飯南町の自然を見ながら仕事してもらえると良い。ギガくらいあれば十分耐えると思うが、現状は難しい。光回線はきているが、ケーブルの元が細く、ボトルネックになっている。</p> <p>飯南町が率先して太くするよう言っていく必要がある。飯南町だけのメリットでは動いてもらえないので、相手のメリットも提示し、相乗効果でやっていけば、進んでいくのではと思うが、普段の業務で手一杯で手が回らないことあると思うので希望というところ。</p>
万代委員	<p>総務省の事例を見ると、細切れに、分野ごとに自治体の事例が紹介されている。町としてデジタルファーストを標榜している事例を見ると、ある分野で突出している。細切れで情報が見れていて、農業に関係ない人は関係ないし、福祉は大きく関係するので、どこも取り組んでいると思うが、トータルとして優れている町、人材育成も含め、トータルでみて成功している町はあるか。</p>
林委員	<p>話として上がってきて良く聞くのは、神戸市が先端で進んでおり、県同士で話す中でも神戸市の話が出てくる。先進してトータルで進めているということではないかと思うが、確認していないので正解かどうかはわからない。</p>
万代委員	<p>小さい町ほどトータルに進めやすいということかと思ったが、大きさは関係あるか。</p>
林委員	<p>神戸市は予算があるためできるということだと思う。</p> <p>スモールスタートでいいと思うので、例えば、痩せたい、筋トレしたいと同時にやろうとするとうまくいかないの、まずは農業、その次は福祉でと順番に進めるうちに、最初はトゲトゲかもしれないが、気が付いたらまんべんない円になっている、そういうので目指していけば良い。</p> <p>トータルで先進的な事例についても資料を見て該当するものがあれば報告させていただく。</p>
万代委員	<p>先ほど端末の話が出て、講演の中でも食わず嫌いはだめというところであったが、生成 AI との関係にあるかと思うが、将来的に高齢者が考えたものを実現してくれるような、端末に触らなくてもデジタル的に解決するような方向性は難しいか。</p>
林委員	<p>まだ難しい。高齢者にも役立つし、サービスする行政側もやるのが明確になると思うが、実際そこまでいっている例は聞いたことがない。</p>
万代委員	<p>スマートフォンが入り口としては現実的ということか。</p>
林委員	<p>そうだと思う。スマートフォンでも高齢者と話していると使い方がわからない方が多くいるが、そういう方も使えるようなデザインを心掛けることが非常に大事。デジタル庁がデジタルを使って良いサービスを提供するためのガイドラインを出しているので、参考に作っていけば良いと思う。</p>
徳永副委員長	<p>スマートフォンについて、これから飯南町が町民全体でデジタル化を進めていくために保有率が気になるところだが、保有率の調査は銀行も試したことがあるがうまくできず、島根県や各市町村で保有率のデータを持っていたり、今後調べる可能性はあるか。</p>

林委員	<p>県としてデジタルカバー率は把握していると思うが、スマートフォンの保有台数まではさすがに調査していないと思う。調査は別の部署でされているので、聞いてみたら案外出てくるかもしれないが。手っ取り早いのは飯南町として把握していることだが、町として調べられているか。</p>
事務局	<p>保有台数は把握していないが、町民意識調査でインターネットの利用頻度を聞いている。報告書の p.71 に結果が載っており、全く利用しないが約3割だったが、高齢者の回答に偏っている。p.72 のクロス集計で年代別に見ると、20代から40代までは8割9割が毎日ネットを使っていると回答しており、恐らくほとんどがスマートフォンを介して使っていると思われる。70代以上では全く利用していない方が半数から約6割という結果が出ている。</p>
三上委員	<p>p.72 のデータを見て、2040年問題があと16年後だとすると、最低でも62.4%の保有率の層が高齢者になっていくので、かなりの確率でスマートフォンを持っているということになると思う。そちら方面で検討していくのが実際的だという風に判断して良いか。</p> <p>今の高齢者を見捨てるわけではないが、実際計画が進んでいくと年数がシフトしていくので、今後の方を対象としたサービスを展開されるのはどうか。</p>
林委員	<p>国は誰一人取り残さないと言っており、使えない人を切り捨てますという話は一切しないので、そういった人に対してアナログ的な支援は必要だと思う。今そういうのが並行稼働期間だと思う。三上委員が言われたように今デジタルを使いこなせている方が多く、私も同世代だが、普通に使いこなせているので、私たちが高齢世代になった時にはそういう行政サービスをすんなりと受け入れ、当たり前に使えと思う。それを前提に作っていくことは良いが、使えない人にもそれが享受できるように並行して支援策を出すことも必要である。</p>

## (2) 町民意見集約結果の報告

### (事務局説明記録省略)

三上委員	<p>Well-being 調査で幸福度と満足度に数値の差が出ている。幸せだと思っているが、自分たちの生活に満足していないのは、都会の生活と比べるからではないか。自分たちの生活に不足があるかのように不満に思っていることが数値に表れているとすれば、松江市や出雲市など近隣の地域と比べて、ないものねだり的なそういう理解でよろしいか。</p>
事務局	<p>数値としては出てこないので断言はできないが、近場の地域と比較する心境はないはずはないと思う。</p>
石橋委員長	<p>幸福度と満足度の差について、話を聞いていて考えていたが、満足度は実際生活するうえで不便に感じていることを評価されており、幸福度は家庭環境等も加味されているので、不便だけど幸せとを感じる方が多いのではないか。勝手な解釈だが、評価の軸が異なっている気がする。</p>

#### 4. 意見交換（将来像と重要政策の意見集約）

##### (1) 将来像に関する検討の視点

###### （事務局説明記録省略）

##### (2) 10年後、飯南町がどのような方向性を目指すべきか・将来像の検討

###### （事務局説明記録省略）

吾郷委員	資料4のp.4 飯南町の対外的アピールポイントについて、福祉分野で豊かな自然、湿地帯、大万山が入っているのはどういう意味か。
事務局	このキーパーソンヒアリングの中では質問自体、各分野での課題等を聞いているが、対外的なアピールポイントとしては分野横断的な質問内容でもご回答いただいております。例えば福祉の団体であっても対外的に飯南町としてアピールするポイントは何かというふうに解釈してお答えいただいた内容となっている。
東委員	<p>中高生意識調査 p.3 の10年後の飯南町の姿について、中学生も高校生も自然環境が保全されているが最も多く回答されているのに対して、町民の意識調査の10年後の心配事としては山林・農地や家（空き家）が継承されない、荒廃するが2番目となっている。そうならないよう、計画の方針を立てていかないといけないが、妙にシンクロしている。</p> <p>今週ずっと鳥取県日野町に行っていた。鳥取でも同様に人口減少進んでおり、アンケートとキーパーソンヒアリングをされているほかに、鳥取県日野町の職員と一緒に一軒一軒回って家系図を書いている。よくする手法だが子どもがどこへ出て行って何をしているかを聞いていくと、両親は子どもたちが生まれ育ってきた景観を何とか守ってあげたいと、草刈り等頑張っているが大変で、農地もなかなか維持していけないし、除雪もある中でなんとか今やってきている。</p> <p>それがこのままだと難しくなることは誰もが分かっている中で今のアンケートと重ね合わせてだが、今後どういうことを指標として見て行ったら良いかという時に、最近利他という言葉が使われている。利己の反対の利他は、隣のお父さんお母さん大丈夫かなというように、他人を思いやることとか。福祉の分野でもそうかと思うが、共感や信頼のようなことを新しい価値にしていく時代になっており、そういうのができるのではと思っている。</p> <p>10年後に山林・農地、家が継承されないとかそういうことは出身者や関係人口が入ってきてくれて、全部が維持できることはないが、そういった思いやりや共感で少しでも補っていくことができれば、子供たちが10年後こうなっていったらいいという方向に沿わせていくことができると感じた。</p>
今岡委員	<p>農地に関しては、転用するにもすべて規約があり、簡単に耕作放棄地にしたり、家を建てることもできないような規制がかかっている。飯南町の田んぼは一部を除いては一種農地になっており、転用をかけると約2年かかる。</p> <p>そういう農地は飯南町に多くあるが、それを守っていく人間は高齢者ばかりで</p>

若者はいない。町内は高齢者ばかりで息子は勤めているので、手伝えるのは祭日や土日祝となる。集落営農も立ち上げた15年前頃は50代半ばから60代くらいで良かったが、今はどこの営農集団も70代くらいと高齢化して疲弊している。一部Iターンで来られた方が集落営農や法人営農に入っている場合はあるが、農業の実態は大変である。

決して儲けが出るような産業ではないので、いかに赤字を無くすかというやり方をしていかないと続いていかない。若者や子供に農業を押し付けることはなく、何らかの仕事をして、合間に農業をすることしか思いつかない。

UターンやIターンで来られる方は、都会の生活に慣れている。我慢したらこちらの給料で生活できないことはないが、安い方と高い方あれば高い方を買うなど、ある程度の贅沢を選ぶ。都会で生活して、例えば給料が都会で20万貰っていて、田舎に帰ったら15万になったとして、田舎で生活できないことはないが、都会での生活に慣れており、高い方を購入してしまう。そういう生活をしていると、農業をしても、通勤に燃料がかかったり、農業に就農して一緒にやってもらうだけの賃金がないというような状態が続いている。

Iターンで来られた方を米作りに誘えない現状がある。Iターン者、Uターン者でリースハウスを町内でやっているのが10組くらい。その内、軌道に乗っているのは半分くらいで、何とか生活できている。

どの作物でも一緒だが、農地は日当たりの良い一等地でないとも良い物はできない。自分たちも米を作るときは日当たりの良い場所で作る。Iターンの方は飯南町で農業をやっているという志を持って来ているので、できれば地域の皆さんに新規就業者の方に一等地を貸していただき、作物を作って、生活が成り立ち定住してもらえるように、農業委員会の代表としては考えている。

高齢者のデジタル活用について、私は委員のメンバーのなかで一番年上であり、私もスマートフォンを持っているが、電話をかける、受ける、天気予報を見る以外は使わない。ちょうどアナログからデジタルへ移行する中途半端な世代でどちらかといえばアナログ世代である。私より高齢の方でもデジタルに対応できる方は多くいると思うが、飯南町の人口の高齢化比率は47%であり、その中でできる人がどれくらいいるか。10年経てば年を取り、今の50代が60代、60代が70代となり、10年経ったときに今できる人はできるが、その上の年代はできないままなので、その世代がデジタルを活用できる仕組みも考えたい。

石橋委員長

アンケートで買い物環境を心配される意見がかなりあったがその辺りはどうか。

加津山委員

現在旧吉田村に住んでいるが、松江尾道線の高速道路ができてから、買い物環境が悪くなり、Aコープが一軒しかない。同じような状況が飯南町でもあり、民間の小売り業者や生活用品、食料品を売っている事業者は数えるくらいしかなく、その事業者も高齢化しているので、事業承継して暮らしていくことも難しい状況が生まれてきている。そうしたことで住民が売り手に対する心配をされるのは当然かなと思った。

	<p>鳥取県の中山間地域で A コープが全てなくなり、行政支援が入るという新聞記事、マスコミ報道があったが、そうした意味で今ある食料品等の小売りからすると A コープなどの商店が非常に大事だと思っている。したがってその地域で一貫に地域住民がそのお店を利用して買っていただけるような意識を持っていただくことが大事であり、繰り返すことによって小売りが残っていくと思う。</p> <p>また、商工会的に言うと、事業者の年代層は 60 代後半から 70 代が多く、割合的に高い。事業承継がうまくいかず、会員が減少する傾向が今後想定されている。</p> <p>私たちが考えていかななくてはいけないのは地域住民と事業者が一緒になって、事業者を守っていく、事業承継が電気屋もできるようにしているのでその地元の事業者をいかに利用してもらうか、展開していく必要がある。</p> <p>小さな事業者も全て生活インフラになっていくと思うので、元気な事業者を地域ぐるみで育てていき、そこが一つの起点になってまた波及していく、そんな 10 年後になっていったらいいなと感じている。</p>
石橋委員長	<p>大嶋委員、先ほど景観の話が出たが、農業員の立場や私も農業やってる関係で現状的に難しいという意見も言ったが、実際に赤名に住んでおられて、飯南町の景観、山農地も含めてどう感じておられるか、みておられるか。</p>
大嶋委員	<p>景観について、この資料を見て一番感動したのは、高校生が利便性というより、飯南町の景観や自然を存続してほしいと希望していること。また、そうした教育が素晴らしいと感動した。飯南町らしさはそこにあると思う。高校生も決して飯南町が都会になって欲しいと望んでいるわけじゃないし、そういうことになるわけでもない。四季折々の景観の中に何かこれからのテーマ、起業ということでもないかもしれないが、守りながら、飯南町をただ通るというだけでなく、お金も落としていただきたいし人の雇用にもつながるといいと思うので、若い人が思う気持ちはそこにポイントがある。私も四季折々の風景が大好きで、森林等、今後そういうところにテーマを見いだせると良いと感じている。</p>
石橋委員長	<p>そうしてもらおうと農業を続けていかないといけないという気になるが、毎年一つずつ年をとる。万代委員県内の状況などご意見あれば。</p>
万代委員	<p>私だけがよそ者であり、皆様の切実な生活実態や地域に生きる方の意見がそのままだと思うので、私から特に付け加えることはないが、感想と方向性をお話する。</p> <p>林委員の講演で、漠然とした不安が現実となる今の状況をどうとらえるか。抽象的な言葉では課題解決にはつながらない、エンパワーというか、言葉が力に繋がっていかない難しい局面かと思う。</p> <p>以前も話したが、前の「笑顔」は良いと思っている。食と健康と学びの 3 つが重なって初めて笑顔が出てくると思っている。もちろんお金が大事で、お金があれば笑顔になれるが、お金は食など回すための一つの道具だという風に捉えようと、食べられること、食料は今世界情勢を見ると必ず信じていいのかどうか。今岡委員の話を知るとギリギリの状態を守っている皆さんがいて、必ずここ 10 年</p>

	<p>で重要になってくる要素なので、あえてこれは押し出して強い決意の下でみんな食べていくという食料が大事だと思っている。</p> <p>食と体が動かないといけないので心の健康もであり、どの町でも同じと思ってしまいが、食と健康の学びで言うと、飯南町は他の町村に比べて環境が非常に恵まれている。高校生が景観や自然が良いと思うのは、そういう豊かな中で学んでいるからで、そういうところに目が及ぶ、広い視野で物が見られているということだと思うので、この三本柱は飯南町では大切にしてほしいと思う。</p> <p>熱い言葉で書くとしても、デジタルの調査やデータが出るところだと思うが、心は熱く、その後必要なものは冷静なデータに基づいて数値を出していき、必要最低限はこの辺。私はいいにゃんという言葉が結構好きで、このぐらいでいいにゃんとか人が減ってもいいにゃんと言うわけにはいかないが、このぐらいあればいいよねという意味でデータなどに添えるなど。</p> <p>以前中山間地域センターの有田氏が、年収がこのぐらいあれば生きていけるとい具体的な数値を出しておられ、150万円がいいですよって言われたら結構勇気が出るが、500万と言われると50歳60歳でも大丈夫かなと思う。150万、100万と言われるとまだいけるかなと思ったりする。そういう熱い心と冷静なデータの組み合わせで、素晴らしいポテンシャルがある、よそから見ている計画、実効性のある計画ができたらいと思う。</p>
石橋委員長	影山委員、若者代表としてどうか。
影山委員	<p>若者の代表になるかどうかかわからないが、先ほど農業の話が出ており、自分たち世代でも農業の話することはある。</p> <p>どこの家にも田んぼがあり、現在は父母、祖父母が農業をしているが、自分達は他の仕事持っているため、自分達の世代になっても、自分達だけではできないというのが現実的な皆の率直な意見。</p> <p>色々ところで法人化、集落営農を進められているが、人口減少や戸数の減少もあり、少人数で一人当たりの負担が増えることは、今すでにそうかもしれないし、今後特にそれが加速してくることが悩み、課題と感ずるところがある。</p> <p>下来島に住んでいるが、川尻や松本の中部の若者と、下来島の自治区内で集まって話すことがある。今、個人でやっている1軒以外は、認定農業者さんをお願いしている現状であり、その他は集落営農や法人化が進められている。自分達世代の人数が少なく、将来どうするかという話をした時に、下来島一つで考えるという話に簡単にはならない。なぜかというと、田んぼの面積は変わらないが、人口が減少する中で、一人あたりの負担部分が、単純に面積割した場合に抱える面積が増えてしまう。だが、生活はしていけないといけないがどうしようかという話はよく出る。</p> <p>これはあくまで私の個人的な考えで賛否両論あるかと思うが、農業に関しては、率先して自らやろうという方は、向上心をもってやることは大事なことでやった方が良く思う。一方で、厳しい、なるべくなら無い方が良くという考</p>

えが、これからの若者の中にあるのであれば、例えば飯南町を一つの単位として、今の田んぼを使った産業、飯南米ブランドで、お米というのもある。

先ほど今岡委員が言われたように、日照条件等によっても違いがあると思う。そうしたところで、例えば作付けする作物を変えたり、飯南町として一本の会社という形で、耕作放棄地があってもいけないが、そうなりそうなところは事業として利益を求める形で進めて行っても良いのかなと。そろそろそういったことを考えていかないといけないと思う。例えば、条件によってはお米に適さない農地もあると思うので、合った作物を探して、なるべくロスの少ないように利益が出るような作物を考えて耕作したり。近所だと来島牧場は牛の頭数が増えるという話も聞いている。例えば田んぼへあえて牧草地のような感じにして、そこで外へ出すだけじゃなく、飯南町の中で物が回るようなことも考えていながら今進めていかないといけないのかなと最近考えている。

もう一点、話を聞きながら思ったのが、三上委員からも話があったデジタルのところで、2040年問題はざっくり20年後のイメージではあるが、その頃になると今60代も80代くらいになって行き渡るというのも一つ考え方としてはあるのかなと思う。ただこの次期の第3次総合振興計画の策定では向こう10年間を考えると、そこへ移行するちょうど途中の段階のことを考えないといけないというのは非常に責任の大きいところだと感じた。

芥川委員

以前自己紹介で子育て中だというお話したが、小学校6年生の娘がおり、先日学習発表会があった。町内の学校どこでもあると思うが、最高学年は地域のことを発表する場をいただく。そこでこんなこと言っていた。自然がないと駄目だよねという結論で、その結論までの過程で、飯南町が10年後100年後豊かであるにはどうしたらいいのかという話から、初めは商業施設建てたらいいじゃんとか色々なことを言って意見を出す寸劇がされており、じゃあ10年100年後にタイムスリップしました、「いっぱい素敵な施設できて、やった」と言った後に「え、しめ縄館どこにいったの」「施設建てないといけないので潰しました」というような展開だった。今まで自分たちがいいなと思ったものを取り壊してまで新しいものを作ることが本当に幸せなのかということ子どもたちなりに考えて、いやそうじゃないよねという結論に至っていた。彼女彼らが思う飯南町があってほしい形は自然が豊かだという結論に至っていた。それはなぜこういう考えに至ったのか考えた時に、先ほどアンケート結果でもあったが、中高生小学生はふるさと教育の賜物だなと思った。

先ほど大人達はそうは言っても色々なお話をした中でじゃあ自然や環境を維持していくのにどうしたらいいのか、色々な問題がある、農業を守りたいけど色々な問題がある。まさにその通りだと感じる。

建設業で勤めている話もしたが、うちの社員も農業の傍ら建設業と二足の草鞋で働いている方が多くおられる。農繁期になると休みを取って農業をして、建設業でも働いて。建設業の中でも様々な土木や建築があるが、農業土木もとても大事で、様々な地域の方々の田んぼや畑、圃場を管理させていただいている。

	<p>行政から発注される仕事だが、それは違うようでひっついてると日々すごく思う。農業は農業だが、建設業も農業を支えていたりまた逆もしかり、そこお金が生み出されるので、お話あったように様々な産業が力を合わせてやっていかないといけないと感じる。</p> <p>それが、子供たちが望むような自然を豊かに守り続ける飯南町につながっていけばいいと思う。</p> <p>除雪についても、建設業なくしては除雪ができないところ、様々なところを様々な産業を支えていると思う。どうしたらいいか答えは出ないが。</p>
石橋委員長	<p>東委員が話した中に「利他」という考え方があった。少し考え方を改めて見守り、意識の部分を変えていかないといけないということがあるが、社会福祉協議会で社会福祉活動の中で、福祉に限らないかもしれないが、どういう意識づけされているか。</p> <p>例えば、高齢者の見回り活動はわざわざ今日集まって周ろうということではなく、日常生活の中で気にしておけば見回り活動になる。自分が車で移動するのにも、ちょっとした意識があるだけで十分福祉活動をしている部分があるのではと個人的には思う。その辺り、住民の方は福祉活動を今から始めますみたいな感じがあるが、その辺り実際どうか。長谷のイメージとしてそう思っているが、実際に町内の他地域はどういう感じか。</p>
吾郷委員	<p>11月、12月で他の地域から視察が2件あった。1件は松江市持田地区の地区社協、もう1件は広島県の坂町の社協の理事が30名以上来られた。なぜうちなのかと思ったが、小地域福祉活動が知りたいということだった。初めての経験で視察に対応したが、その中で飯南町は小さい町だが、小さい町だからこそ日頃の見える関係、そういう中でつながりがものすごく強く、日頃の福祉活動も皆さん意識はしていないが、自然に昔から成り立ちでできているところがあるよう。うちもそういう昔からある、意識はしていないが皆しているという切り口でお勧めする。</p> <p>東委員もよく言われるが、防災は日頃の近所付き合いが大事だということで、高齢者のサロンとか様々なところで日頃のつながりが大事だということを訴えると皆さんほとんど分かれる。既にそんなのやっているよという感じで返していただけるので、他の地区よりは昔からのつながりや思いやりはとても強いと視察に来ていただいて感じた。</p> <p>話はズレるが、飯南高校生のホストファミリーをしており、都会から来た子供をお預かりしていて、その高校生が休みの日に友人と三次まで自転車で買い物に行ったと言っていた。そういうのができるんだと思った。その高校生に今年、小田・真木地区のはやしこに出てもらった時に、その方のお母さんからメールがあり、そういうことは自分の地域では全くなく、そういうつながりの中に出られたことをとても喜んでいただいとおっしゃった。飯南町はすごく良いところがあるのを感じていないこともあるなと思った。海士町ではないものはないと言い切っているが、ないものはないが、あるものを活かすことがすごく重要だととても感じてい</p>

る。なのでそういう地域福祉の推進にもあるものを活かしながら無理なく見守りも、見守りと言っても監視になってはいけないうので緩やかな見守りをすることうで、住みよい地域を作ることになるという視点で進めている。

(3) 10年後、飯南町がどのような方向性を目指すべきか・将来像の検討（後日回答）

当日発言できなかった委員から、後日書面にて回答を受けた。

三上委員

一人のPTAの立場から意見を述べたい。

10年後の将来の飯南町を語るに当たって、それを実際に生きて担っていく世代、中高生がこの町での生活を楽しんでいられるように彼らの願いや希望を環境で整えて若い力で町を活気づけることができればよいと思う。

実施された中高生のアンケートに注目すると将来像に自然が保持された飯南町を望んでいることがトップであるので、その点に関しては多くの支持を得ているのは事実であるが、これは学校での教育の賜物とも思える。例えば神戸川の源流であることや赤名湿地・大万山のブナの木など生命地域学によって意識が高く持たれていることがあげられるが、その一方で将来望んでいることの上位に商業施設・娯楽施設の充実があることが実はこれが本音ではないかと思う。学校や公民館活動のようなフォーマルなものではなく若い人が自主的・主体的に活躍できる場所や交流の場所・娯楽の施設を設けてエネルギーな若者の活動が他の町民の皆さんにも知れるような場所があればよいと思う。そして飯南町の若い人たちの元気が町全体の活力となればよい。

イメージは

若者が元気でイキイキしている ←

↓

こんな活気に満ちた若者がいる場所で子育てしてみたい家族

↓

こんな若者が将来の飯南町にいるのなら任せられると思う年配者

↓

期待を持ってみられる若者がますます元気でイキイキする

という円環サイクルになるような町づくり。

このことには若者が町の物事にかかわり実際に彼らの意見が飯南町政に取り上げられて後押しされることや若い人の考えを尊重して任せる勇気また世代交代を積極的に行うこと、それはいきなりのバトンタッチではなく経験者として若い人の歩みを見守りサポートに徹する覚悟がいるのではないかと考える。

若者の既成にとらわれない新しい考え方・願い・価値観（※1）が次の飯南町の次のステージへの道しるべとなればよいと思っている。

（※1 それはもしかすると今の私たちの世代の考えや望みでないことかもしれないが彼らが決定し責任をもって歩む勇気を応援してあげたい）

	<p>若い時から飯南町での役割があると思える若い人はここを自分の居場所として選ぶことができるのではないかと思ったりもする。</p> <p>あくまでも個人的な感想を含む意見である。</p>
<p>林委員</p>	<p>資料について分かりやすくまとめていただきありがとうございました。</p> <p>豊かな自然環境に住民の殆どが幸福度を感じていると言う点は、とても素晴らしいと思いました。私も飯南の夕暮れ・情景がとても好きです。</p> <p>中高生の子供達も同様な感覚や意見を持っており、その点についてはとても素晴らしいと思いましたが、そう答えながらも、アンケート結果を見ると中高生の半分以上は「飯南町以外に住みたい」「結婚した後は飯南町以外の地域で生活したい」と言う回答をしており、印象的な話と現実的な思いには大きな隔たりがあると言う事も改めて分かりました。</p> <p>また、私は将来的に車が運転できなくなった場合にどうなるのかとても不安ですが、大多数の町民も同様の意見を持っており、この点について早急・実効的な対策を考えないとダメと思いました。</p> <p>2040年問題を踏まえると（今から15～20年後頃）前述の中高生の思いが現実になってしまえば飯南町の働き手は殆どいなくなる事になります。（働き手世代の人口が最小なのに、町外へ出て行ってしまうと…）</p> <p>そのため、現実的な目線で計画を立てないと危ないと言う思いと、その対策案のうちデジタルが活用できる部分は積極的に取り入れて行くべきだと思いました。</p>